

買い物時のポイント

買い物前の確認

買い物前に冷蔵庫の中身を確認して、必要なだけ買しましょう



手前どり

すぐに食べる予定の食品は手前から取るようにしましょう



家庭でのポイント

使い切り

「そろそろ食べなきゃ!」という食品から優先的に使い切りましょう



食べきり

食べられる量を予測して作りましょう



消費期限と賞味期限を正しく理解

消費期限は「安心して食べることができる期限」、賞味期限は「おいしく食べることができる期限」です。賞味期限を過ぎてはすぐに食べられなくなるものではありません



「家庭での食品ロス実態調査」参加者募集

市民の皆さんとともにごみの削減、資源の有効活用を進めるため、京都府立大学と共同で「家庭での食品ロス実態調査」を実施します。

【実施期間】◆前期…11月2日(木)～29日(水)◆後期…来年2月20日(火)～3月4日(月)

【内容】送付する専用ごみ箱(20ℓパール)とWi-Fiルーターなどのキットを自宅に設置し、期間中、家庭で出た食品ロスを分別し専用ごみ箱に入れる。また、参加者を2つのグループに分け、食品ロス削減の取り組みをするグループに割り振られた参加者は、前期の後半2週間の間、食品ロス削減ツールを利用して食品ロス削減の取り組みを行う

【対象】次の全てに該当する人◆世帯人数が2人以上◆食事の支度や買い物を日ごろ行っている◆前期・後期の全調査期間に参加できる◆10月・12月・3月の計3回実施するアンケートに全て回答できる

【募集人数】60人程度(多数の場合選考。応募結果は10月上旬までにメールなどで通知)

【その他】参加者には謝礼(QUOカード6,000円分)を支給。事前説明会を10月下旬と11月中旬にオンラインで2回開催

【申し込み方法】9月19日(火)までに申し込みフォームで。右コードからアクセス可。

【問い合わせ先】生活環境課(☎66・1005)



▲専用ごみ箱。20ℓパールで幅21ℓ、奥行29ℓ、高さ43ℓ。設置には床にA4サイズほどのスペースが必要



▲専用Wi-Fiルーター。幅13ℓ、奥行13ℓ、高さ3ℓ。縦置き、横置きいずれも可。コンセントに挿すだけで他の設定不要



舞鶴市廃棄物減量等推進審議会会長  
京都府立大学大学院教授  
山川 肇さん

舞鶴市のごみ量は減少していますが、可燃ごみの内容を見ると、食品ロスがごみとして多く排出されています。

こうした食品ロスの削減は舞鶴市だけではなく、全国、さらには世界共通の課題です。

この調査では、家庭での取り組み、特に冷蔵庫の整理や買い物時の工夫により、食品ロス量がどのように減少するのかを調査するものです。

調査では、冷蔵庫整理グッズの使用などにより、食品ロス削減に取り組んでいただきます。

この調査を通じて、こういった取り組みが食品ロスの削減に効果的であるのかを調べ、これからの食品ロス削減の推進に貢献したいと考えています。

ぜひ、ご参加ください。

減らそう食品ロス

日ごろの生活の中で「もったいないなあ」と思いながら食べ物を捨ててしまう事はありませんか。舞鶴市内の家庭から捨てられる可燃ごみのうち、生ごみが占める割合は約41%で、そのうち約40%はまだ食べられるのに捨てられてしまう食品、いわゆる「食品ロス」となっています。この量は1年間にリサイクルプラザに搬入される不燃ごみの量に相当します。こうした食品ロスは日常生活の中で少し意識を変えるだけで減らすことができます。皆さんも食品ロスの削減について一緒に考えてみませんか。

《生活環境課》



舞鶴市のごみの状況

市民の皆さんの協力により、この2年間で舞鶴市のごみ排出量は大きく減少し、令和4年度の1人1日当たりのごみの排出量は818.3gと、手数料見直し前と比較して82.5g、約9割減少しています。これにより、市民1人当たりのごみ排出量は全国平均を下回ることになりましたが、最新(令和3年度)の京都府平均775gより多く、まだまだごみ減量の余地があります。一方、818.3gのうち654.7gを占める可燃ごみの内訳の割合を調べてみると、生ごみの中には、まだ食べることができる食品、いわゆる「食品ロス」が約40%含まれている状況にあります。

「食品ロス」はいろんな意味でもったいない

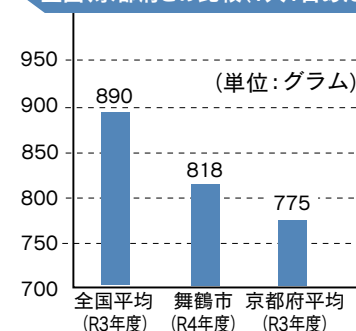
食品ロスがごみとして出されると、ごみの運搬や焼却、埋め立てに費用が発生します。ごみの問題だけではなく、廃棄した食品を生産する際に使用した水や飼料加工や輸送で使用するエネルギーなども結

果として無駄になってしまいます。さらには、こうした一連の経済活動やごみ処理の際には二酸化炭素が発生し、環境にも大きな負荷がかかっています。このように、食品ロスはごみの問題だけでなく、資源の有効活用や地球温暖化にも関わる重要な問題であり、私たち一人ひとりが、食べ物を大切に、無駄な廃棄を減らす努力をすることが求められています。

「食品ロス」を意識した生活を

食品ロスを減らす取り組みは、舞鶴市のさらなるごみ減量を進める上で重要な取り組みです。食品ロス削減には市民の皆さんが日々の生活の中で少し意識を変えることで、大きな効果がある取り組みがたくさんあります。次のページに、いくつか具体例を挙げていますので、日常生活の中に取り入れてみてください。私たち一人ひとりの心掛けて食品ロスを削減し、舞鶴の環境をより良いかたちで次の世代に継承していくるようにごみの減量に向け取り組んでいきましょう。

全国、京都府との比較(1人1日あたり)



市内のごみ排出量推移(1人1日あたり)

